

Solan Primary School  
4th grade news letter

# Venture Fourth

2023. Jul. 28

## 命の設計図を探してみよう

毎年、必ず道徳学習の一環として授業で扱うテーマがあります。

その一つが「命のつながり」です。

特に、保健の学習で「育ちゆく体とわたし」を学ぶ4年生にとって、「命」について学ぶことは取り分け大きな意味があると思っています。

今日も、そのテーマで授業を行いました。



■赤ちゃんが、お腹の中にいる時の様子を持ってきました。赤ちゃんの一番最初です。  
感想をどうぞ。

「卵みたい」

「動いている」

「思ったのと違う」



■少し大きくなりました。感想を。

「だんだん近づいている」

「動物みたい」

「目が見える」



- また大きくなりました。感想を。  
「手が見える」  
「目がある」  
「思ったのとちがう」



- さらに成長しました。感想を言いましょう。  
「ええっ？」  
「これ人間？」  
これは動物なんです。人じゃない。  
(子どもたち大笑い)



- 生まれてきました。何の赤ちゃんでしたか。みんなで、さんはい。  
「犬です。」  
犬でしたね。



- 別の赤ちゃんを連れてきました。一番最初です。何の赤ちゃんですか。  
「まだわかんない」  
「あれじゃないかな」



- 大きくなりました。なんの赤ちゃんでしょう。  
「恐竜？」  
「へび！」  
「鳥！」  
「宇宙人！」(笑)



さて、何の赤ちゃんなのでしょうね。  
■成長しました。何の赤ちゃんでしょう。  
「タコ！」  
「ペンギンだと思えます。」

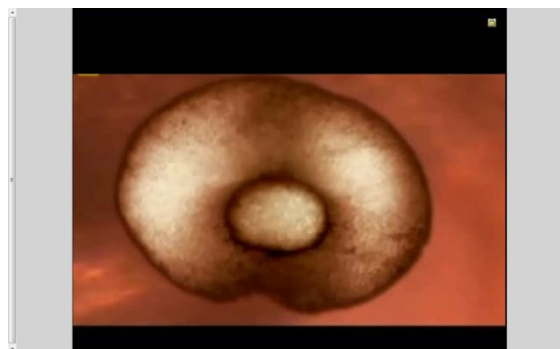


■大きくなりました。  
「あー！」  
「イルカだ！」  
何の赤ちゃんですか。さんはい。  
「イルカです」



■生まれてきました  
「わあ」  
「すごい」

子どもたちはこの時点で相当ヒートアップ、  
映像に夢中と言った状態です。



■また、別の赤ちゃんを連れてきました。  
なんの赤ちゃんですか。  
「これじゃわかんない」  
「わかりません」  
「トラです！」



■成長しました。  
何の赤ちゃんですか。  
「人間！」  
「ライオン！」  
「そろそろ人間だと思う。」



■大きくなりました。  
「ん？あれは鼻？」  
「どうやって見るの？」  
さあ何の赤ちゃんでしょうね。



■少しずつわかってきますね。  
「あーゾウだ！」  
「鼻が長い！」



■さらに成長しました。  
何の赤ちゃんでしたか？  
「ゾウです！」



■またまた、別の赤ちゃんを連れてきました。  
(笑)  
何の赤ちゃんですか。  
「今度こそ人かなあ」  
「また一緒だ」



■大きくなりました。  
何の赤ちゃんですか。  
「ぶた！」  
「馬！」「ネコ！」  
「ゴリラ！」



■生まれる直前の様子です。  
「あー！」  
「かわいい！」  
何の赤ちゃんですか。  
「人です。」

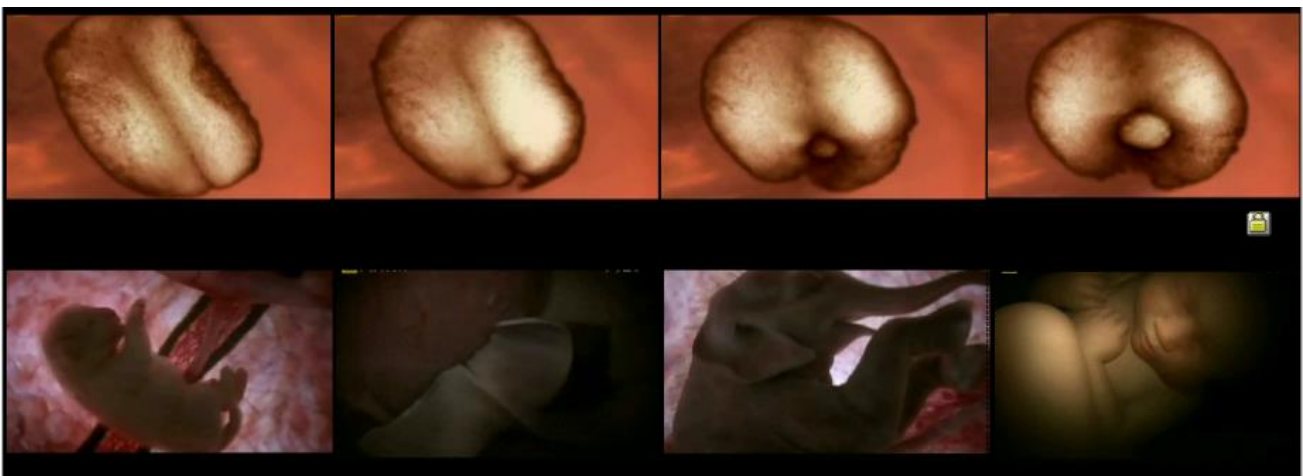


■無事に生まれてきました。  
みんなも、こうして生まれてきたんですよ。

■人の赤ちゃん、象の赤ちゃん、イルカの赤ちゃん、犬の赤ちゃん、これらを見た感想は？

「最初はみんな同じだった。」

「はじまりはみんないっしょということが分かりました。」



■最初はみんないっしょなんです。

でも、人の赤ちゃんは人、象の赤ちゃんは象。これはどうやって種類が分かれるのでしょうか。何のおかげで、みんなは人間に生まれたのでしょうか。

「お父さんとお母さんのおかげです。」

「血液かな。」

ここでまっすぐに手を挙げたのが菊地くん。

「DNAです！」

おお〜とクラスからどよめきが起きました。

ここで、遺伝子の映像をここで見せました。

■遺伝子というのは、「命の設計図」です。

命の設計図が、100 個あるとすると、その98.5 個はどの動物も全部いっしょです。人間の赤ちゃんとチンパンジーの赤ちゃんは 1 個か 2 個しかちがいません。設計図が。その 1 個か 2 個の設計図があるおかげで、みんなは人間に産まれてくるんです。ちなみに残りの 98 個の半分は、犬と全くいっしょです。残りの半分はハエといっしょです。

でもみんなは人間の赤ちゃんに産まれてきました。

それは、人に生まれてくる命の設計図が 1 個または 2 個あったからです。

その「命の設計図」、みんなは誰からもらったんですか。

「お父さんです。」「お母さんです。」

みんなのお父さん、お母から命の設計図をもらったよ、っていう証拠が、体のどこかにありますよね。探してごらんください。

■例えば、先生の頭。実はうずが 3 つあります。

これは先生のお父さんも一緒です。

ちなみに、ちょっとくせっけな所がある髪の毛はお母さんとよく似ています。

同じように、みんながお父さんやお母さんからもらった命の設計図を探してごらんください。

「声が似ています。」

「頭の形が似ています。」

「耳の後ろのところが似ています。」

「ロングスリーパーなところですよ。」

「背が高いところですよ。」

「妹とお母さんと私は同じところにほくろがあります。」

「何というか、顔全体がものすごく似ています。」

■ぼくは、お家の人から命の設計図をもらっているよという作文を持ってきました。

小学校 2 年生の子が書いた作文です。

**ぼくの足の裏にはアザがあります。左足のふとももの裏で、半ズボンをはくとちょうど見えるところです。**

今まで誰もアザのことをいう友達がいなかったのに、すっかり忘れていたのに、2 年生になって「足に汚いものをつけている」といわれて気になり始

めました。何度も言われると「ぼくは汚くないよ」と言い返そうと思いましたが、でも声にならなくて悔しくて泣きそうになりました。

家に帰って「お母さんの馬鹿、何でぼくの足に変なものをつけて産んだんだ」というと、お母さんはあっけらかんと「あ、足のアザのこと、あれはお母さんの子どものしるしなんよ」と言ったので、ぼくはずっこけました。そして、お母さんはアザのことを話してくれました。

第二人にも同じようなアザがあること。トオルは、ぼくと反対の右足だけど、肌の色が黒いからあまり目立たない。イタルは色が白いから、みんなに分からないように、おなかに薄茶色のアザになっていること。いろいろ話しながら、弟たちの足やおなかをみると、だんだん心が落ち着いてきました。

話をしている一番うれしかったのは、お母さんにも赤ちゃんのおしりみたいな青アザがあることでした。一番笑えたのは、ぼくのアザを見つけたときのお母さんの様子です。生まれてすぐには気付かなかったぼくのアザを見つけたとき、お母さんは「どうしよう、紙おむつのテープがくっついて取れなくなって跡になっちゃった」と思ったそうです。落ち着いて考えるとそんなことありえないのに。あわてもののお母さんです。弟たちが生まれて、二人ともアザがあったとき、「今度は何か病気かもしれない」悲しくなったそうです。ぼくだけでなく、お母さんも悩んでくれていたなんて、うれしくなりました。

「地震があったって、離ればなれになったって、このしるしがあればお母さんテツたちをすぐに見つけてあげるからね」と、得意そうに言うお母さんを見てみると、友達に言われてくやしかった気持ちはどこかに飛んでいきました。今度何か言われたら「くやしかったらアザつけてみる」と言ってやろうと思っていましたが、「これは僕の家の子ども、というしるしなんだ。いいだろ」と自慢したくなりました。

クラス中がシーンと静まり返って作文を聞いていました。

これが今日の道徳の第一部。

第二部では別の授業を行いました。

また、別号の通信で紹介します。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

